

群 教 セ	G10 - 01
	平 28. 261 集
	道徳

# 友達の考えを知り、自分の考えを 見つめ直すことのできる児童の育成

—自分の考えが可視化できるハートメーターを使った  
道徳の授業の工夫を通して—

特別研修員 萩原 純子

## I 研究テーマ設定の理由

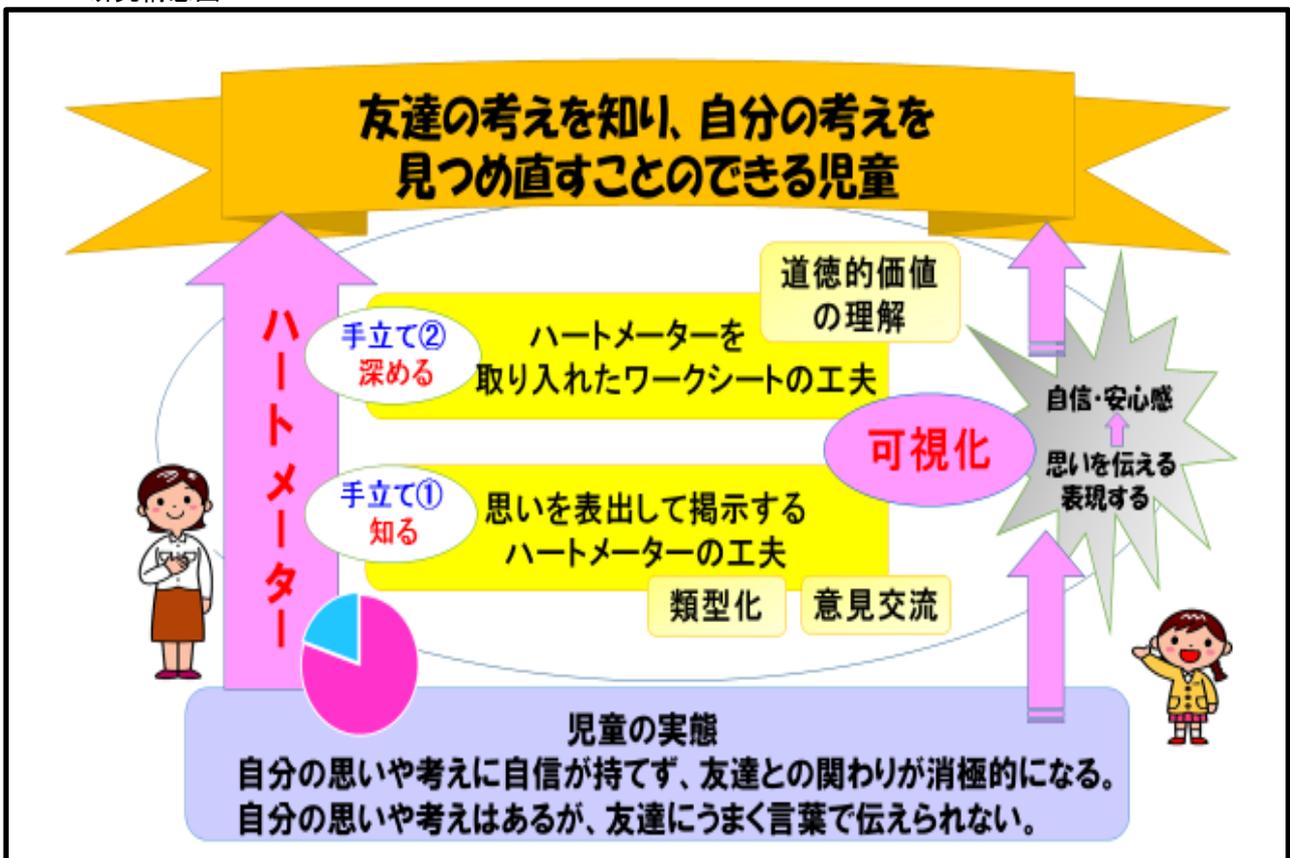
はばたく群馬の指導プランには、道徳の時間において児童生徒相互が考えを伝え合い、学び合い、深め合うために「話し合いを効果的に展開し、児童生徒の道徳的なものの見方や考え方を深めていくことが大切」と明記されている。考えを深めていくためには、その場の話し合いが活発に行われ、お互いの意見が聞き合える場の設定をして、さらに、こうした活動によって、自分との関わりで道徳的価値を捉えることが必要である。

本学級の児童は、気持ち（自分の思い）をうまく言葉で伝えられず、意見をはっきり言う児童に引っ張られて、結果的に自分の思いをおさえてしまう児童が多いと感じる。さらに、人間関係でも強い物言いをする児童に対して、判断力を失ってしまう児童もいる。

そこで本研究では、各々の思いを基に自分の考えを可視化できるハートメーターを作成し、自分の思いを伝えられない児童でも、ハートメーターを活用することで思いを表出できるようにした。さらに交流の場を通して、全員が自分の考えを持てる授業を目指した。このように自分の思いを表出し、考えを可視化することによって、相手に自分の考えが伝えやすくなる。また、自分を認められることで自信へとつながり、安心感を持って友達との関係作りができると考える。そして、たくさんの友達の感じ方や考え方を知り、自分の考えを見つめ直すことのできる児童を育成しようと思い、本テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

道徳の指導において、「考えを深める」ためには一人一人が自分の考えを持ち、その上で友だちの考えを聞いたり話合いに臨んだりすることが大切である。そのためにハートメーターの使い方について、以下の2つの手立てを考えた。

### 手立て①（知る）

一人一人の思いを表出し、掲示することで、それぞれの考えが可視化できるハートメーターの工夫。

### 手立て②（深める）

自己の考えだけでなく、他者の考えを聞いた上で自分の考えを見つめ直すことで、各自の変容が捉えられるハートメーターを取り入れたワークシートの工夫。

#### 手立て①について

自分の考えを持つためには、まず思いを表出できるツールが必要だと考える。文章を書いたり発表したりすることが苦手な児童にとって、自由に動かせるハートメーターは、思いを表出して考えが伝えられる一つのツールだと考えた。そして、ハートメーターを掲示することで、自分も学習に参加していることが実感でき、同じ考えの子がいると自信や安心感につながり、違う考えの子がいることで多様な考えに触れられ、友達の考えを知ることができると思った。

#### 手立て②について

道徳的価値を理解するためには、自己の考えだけでなく他者の考えも聞いた上で、自己の考えを深めていくことが大切である。そのためにワークシート上に2つのハートメーターを作成する。そして、自分の考えをハートメーターに書き込んだ後、他者（友達）の考えを聞いた上で、2つ目のハートメーターに書き込んで変容を比較することで、道徳的価値に近づけていく。その結果、道徳の時間の前段と後段での自分の心の動き（変容）が分かり、さらに道徳的価値の一般化の中で、その価値を捉えていくことができると考えた。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 思いを表出して掲示できるハートメーターを一人一人に持たせて活用したことは、自分の考えを持つことができ、意見交流や話合い活動に対して意欲的な参加を促すことができたため、有効なツールであった。
- ハートメーターを黒板に掲示したことによって、一斉に全員（友達）の考えを知ることができるとともに、分類化や類型化もしやすく、考えを深めていくのにも適したツールとなった。
- ハートメーターを取り入れたワークシートは、2つのハートメーターを比較することで、自分自身の考えの変容に気付くことができた。言葉では言い表せない微妙な変化（変容）もハートメーターで表現でき、考えを見つめ直すことができた。また、全体共有したり他者に見せたりすることで、研究主題にあげている「友達の考えを知る」こともでき、「自分はどうかろう」という自分の考えと比べて見つめ直すことができた。

### 2 課題

- ハートメーターの活用では、全体共有のための掲示で「知る」活動はできたが、分類や整理したものを「深める」活動で考えを広げることができなかった。「深める」活動が十分でなかった理由として、後半のワークシート内でのハートメーターのどこに着目し、話を深めていくべきかという視点があいまいになったことが挙げられる。
- 2つのハートメーターを書くワークシートでは、前段と後段で発問にずれがあったため、道徳的価値の一般化にうまくつながらなかった。そのため、友達の意見を基に考え直すこともできず、自分の気持ちを見つめ直す活動が不十分になってしまった児童もいた。
- 思いを表出して掲示するハートメーターや、変容を捉えるためのハートメーターを使う際は、押さえない道徳的価値に結びつくよう、使うタイミングや問う内容を精選することが重要である。

## 実践例

- 1 主題名 やくそくやきまりを守る 内容項目C-(1)公德心・規則の尊重  
資料名 「もどらない本」かがやけ みらい 3年

## 2 主題及び本時について

### (1) 価値観

本主題は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の規則の尊重「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る」という価値をねらうものである。今回扱う規則の尊重は、他者との人間関係を築く上で重要な要素の一つと考える。本資料では、友だち同士で交わされた約束をきちんと守ることで、人間関係がより良くなることに気付かせたい。

### (2) 児童観

本学級の児童は多少のトラブルはあるものの、全体的には周囲の子に優しくできる子が多い。また普段から明るく元気が良い。しかし、2学期になると学校生活の慣れからか、グループでいることで安心し、時間を守らなかったり、禁止されている使い方で遊具を使用したりする児童が出始め、きまりや約束事を守れなくなってきた。そこで規則やルールは守らなければいけないものだ知っているが、分かっているでも実際はできていない部分に気付かせたい。さらに、どんな場面においても約束をきちんと守ることで、気持ち良く生活できることを学ばせたい。

### (3) 資料観

図書室で本を借りたひさしくんは、ゆみえさんに火曜日に貸すと約束する。しかし、洋平くんからも声がかかり、ゆみえさんが借りることになっていると話した上で洋平くんには貸してしまう。その後、約束の火曜日を迎えるが洋平くんは欠席で本は戻らず、ひさしくんはゆみえさんに責められるという話である。本資料は、短い話にまとまっていて読みやすくできている。

本資料では、約束を守れたかどうかというところに視点をあてて話を進める。その視点で見ると、ひさしくんは洋平くんにも貸しているので「2重の約束」を交わしている。様々な「約束」がある中で、「約束」というものを一般化して児童に投げかけて、「そもそも約束とは」という視点で理解を深めていく。

## 3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、ひさしくんとゆみえさんの二人の間でのやり取りに着目し、ひさしくん的心情を考える際にハートメーターを使用して、気持ちのゆらぎを考えさせた。さらに、その気持ちのゆらぎから道徳的価値の一般化につなげて、中心発問の際にワークシート内のハートメーターに記述した。

自分が書いたワークシートを眺め、前段と後段のハートメーターの割合（青と赤）になぜ変化が生じたのかを考えるようにした。

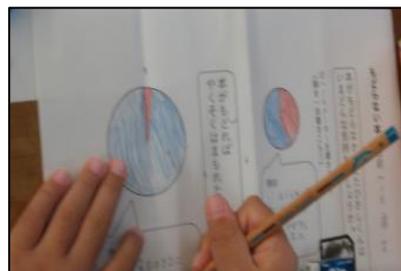
### 手立て① 思いを表出して掲示するハートメーターの工夫

主人公の心情を問う発問で各自がハートメーターを使い、主人公の心情を個々で考え、そう考えた理由も明記する。黒板に掲示する際、ある程度のパターンを示しておいて、それを基に分類化して掲示する。分類化されたものを確認した後、何人かの児童に理由を聞きながら考えをゆさぶったり、深めたりして意見を交流する。



### 手立て② ハートメーターを取り入れたワークシートの工夫

ハートメーターを掲示してしまうと心の状態が手元に残らないため、ワークシートにも同様のもの（ハートメーター）を書かせて残す。そして、後段の中心発問で、紙面にハートメーターを書かせ、前段と後段でのハートメーターを比較することで変容を捉える。



#### 4 授業の実際

導入では、「今まで友だちとどんな約束を交わしたことがあるか」を想起させ、価値への方向付けを行った。資料の読み取りでは教師の範読後、図1のように相関図の形式にして内容をおさえた。

##### 手立て① 思いを表出して掲示するハートメーターの工夫

発問：「本がもどらなかったひさしくんは、いまどんな気持ちでしょうか。」

上に挙げた発問に対して、青や赤が動かせるハートメーターを個々に渡し、各々が動かしながら、ひさしくんの気持ちに寄り添った。

青：申し訳ない 赤：いや 自分は悪くない

可動式となっているので、動かしながら一人一人が思いを巡らせ、決まった児童から黒板に名前つきマグネットを貼って一斉掲示した。

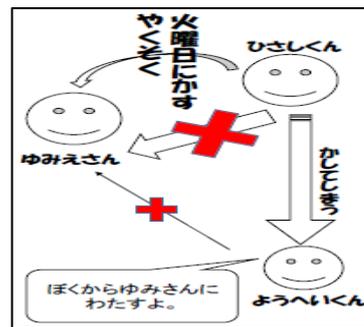


図1 資料の人物相関図

図2のように、ハートメーターで思いをうまく表出できない児童には、あらかじめパターンを提示して（色の割合はあくまでも例）、児童一人一人がスムーズに活用できるようにした。

一斉掲示の際にもこのパターンを示し、児童自らが自分の気持ちに近いところへ分類して貼れるようにした。

A：青多い B：赤青半々 C：赤多い

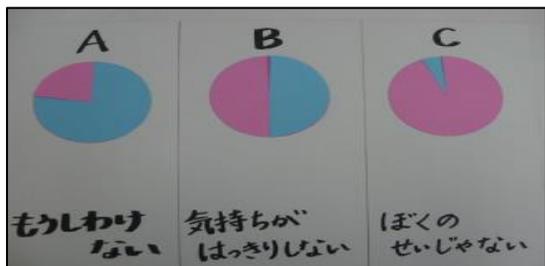


図2 ハートメーター

ハートメーターを利用したことで、思いが表出できたため、すぐにワークシートに書き込む児童がいたが、一方で書いたり消したりしている児童、難しそうな表情を浮かべる児童など、各自の作業の中で様々な様子が見られた。

以下のように、全体としては各自がハートメーターを動かし、思いを表出できた。分類した結果からいくつか取り上げ、さらに理由も発表した。



活動の様子

- S 1（青多い：A） 自分が洋平くんに貸したから。
- S 2（赤青半々：B） 申し訳ない気持ちもあるけど、ぼくも悪くないという2つの気持ちがあった。
- S 3（赤多い：C） 洋平くんが休んでしまったのだからしょうがない。
- S 4（赤多い：C） 今は洋平くんが本を持っているから悪くない。

いくつか考えを聞き出したところで、展開後段での中心発問へ進んだ。

##### 手立て② ハートメーターを取り入れたワークシートの工夫

中心発問：「本がもどればやくそくはまもれたといえるでしょうか。」

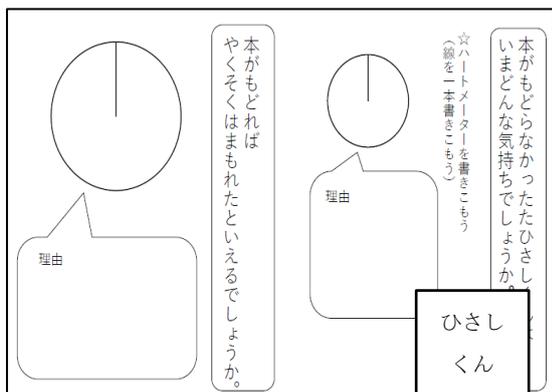


図3 ワークシート

資料から離れ、道徳的価値の一般化へ向かう発問を児童に投げかけて心をゆさぶった。中心発問に対しては、ワークシート上のハートメーターを色分けさせ、理由も考えさせた。

青：守れていない 赤：守れているのではないか

書き込む際には、左の図3のような2つのハートメーターのあるワークシートを使用した。ワークシートは、中心発問前(中央)で3つに折り込み、クリップでとめて後半の発問が見えないように折り方を工夫した。後段でのハートメーターの方が重要なため、大きくして強調し、こちらには理由も必ず書くようにした。

児童の数名は、価値の一般化として考えさせた時に、発問中の「本がもどれば」という解釈を間違ひ、「次の日や違う日に戻れば良い」と勘違いしてしまった。しかし、大半の児童は、本来「約束とは」約束した本人が果たすものだと思え、青色の割合の多くなった状態でハートメーターを色分けしていた。

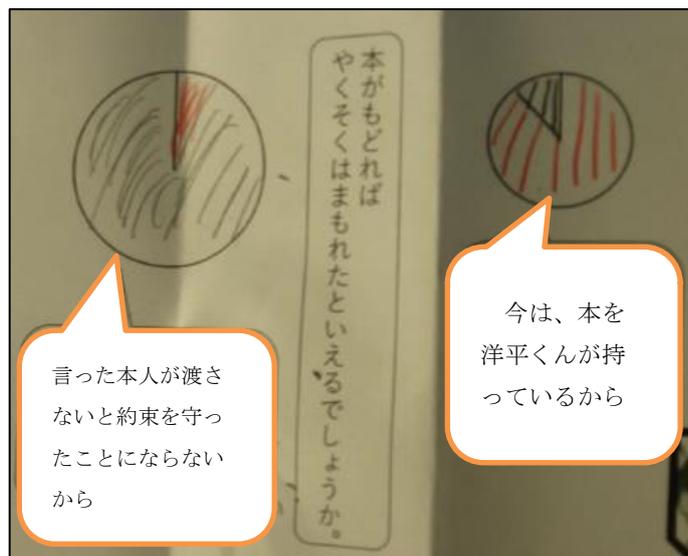


図4 変化の見られたワークシート

このように、二つのハートメーターを見比べたときに、はっきりと青と赤の色が逆転した児童や、約束は守れていないという割合（青）の増えた児童が多数いた。

## 5 考察

手立て①では、青の「申し訳ない」という気持ちの多い児童が多くを占めていたが、赤の「自分は悪くない」という考えの児童も数名いた。その考えを持つ児童は、学級内でも友達との関わりがうまくいかない児童だったので、ハートメーターを使うことで思いをうまく表出できていると感じた。他の児童もハートメーターを各自で動かして思いを表出することで、それぞれが自分の考えをしっかりと持つことができていた。さらに全体で掲示して共有することで、それぞれの考えを確認し、友達の考えも知ることができた。このようにハートメーターは、掲示しながら分類化や類型化ができるので、「深める」活動へスムーズに進むことができた。

手立て②では、資料から離れ、道徳的価値の一般化のために発問を変えて「約束」について考えさせた。しかし、ここでは発問のおさえが弱かったため、前段での発問と後段での発問が、おさえたい道徳的価値にうまく結びつかなかった。そのために児童は戸惑い、ワークシートのハートメーターや記述した理由にも表れ、道徳的価値の一般化に対する深まりに差が見られた。しかし、授業の最後にワークシート上のハートメーターを実物投影機で写し、友達の変容を知ったり、自分の考えと比較したりすることによって、道徳的価値の一般化の深まりの差が縮まり、おさえたい道徳的価値への意識を高めることができた。

今回の研究では、ハートメーターの活用を手立てにして、自分の考えを可視化できる道徳の時間を考えてきた。ハートメーターは自分の中にあるあいまいな感情（思い）を表出するには適したツールであるということが分かった。言葉だけではうまく伝えきれない部分も、ハートメーターを使うことで思いを伝えやすくなった。また、友達の考えもハートメーターを使うと視覚的に知ることができ、同じ考えの中にもいろいろな思いがあることに気付き、自分の考えを見つめ直すときの一つの材料となった。葛藤の資料ではなくても、今回のように公德心・規則の尊重のような様々な道徳的価値においてもハートメーターを活用することができ、汎用性のあるツールとしてもその有効性を実感できた。さらに、他教科（国語や学活や朝の会や帰りの会など）でもこのハートメーターを活用できる可能性があることが分かった。今後ともこの道徳の時間を中心にして、様々な活動の中で、このハートメーターを活用した実践に取り組んでいきたい。